



巻頭言

日本再興の鍵は化学に基づく イノベーション



榊原定征 Sadayuki SAKAKIBARA

日本化学会 会長・東レ株式会社 代表取締役会長

私は、昨年4月の会員選挙と今年5月26日の社員総会・理事会での承認を経て、日本化学会会長に就任いたしました。任期の2年間、副会長、理事等の皆さんの協力を得て、日本化学会の運営、改革に尽力してまいり所存です。会員の皆様、よろしくお願ひ申し上げます。

日本化学会会長に就任するにあたり、最近の我が国を取り巻く環境変化のポイントに触れるとともに、化学の役割について私の考えを述べさせていただきます。

世界経済は、先進国、新興国ともにゆるやかな回復軌道を辿る中、自由貿易協定（FTA）による貿易の自由化や、TPP等の多国間経済連携により、経済のボーダレス化がますます進行し、グローバルな競争は今まで以上に激しさを増しています。その中で、日本経済は、デフレや震災等の影響による長年の停滞から、安倍内閣の金融および財政政策によって経済環境が好転し、昨年6月に策定した政府の成長戦略「日本再興戦略」の下で、いよいよ民間部門が主役として経済再生を実行していく段階に来ております。

一方で、世界は地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口増加に伴う食糧・水の問題等を背景に、グローバル競争はますます熾烈になって来ています。このような状況の中で、我が国産業が国際競争力を高め、経済再生を果たすためには科学技術に基づくイノベーションによって、諸外国が追随できない圧倒的な技術較差をつけた事業・製品・サービスを創出し続けなければなりません。

私どもの会社の事例を見ても、厳しい国際競争の中で安定収益を確保できる事業は世界トップ事業、即ち売上や市場シェアで世界ナンバーワンの事業か、品質、性能その他で世界オンリーワンの事業に限定されています。当社にはこういった世界トップ事業が合成繊維、炭素繊維、ポリエステルフィルムなど30以上ありますが、これらの事業はいずれも長年に亘る研究・技術開発・イノベーション、特に「化学」のイノベーションの集積の上に築かれた事業です。

このように、化学は企業を、大きくは産業・社会を本質的に変える力があり、日本の化学の力を今まで以上に高めていくことが日本の国際競争力を強化し、日本経済の繁栄、ひいては日本の国力の再興に繋がるものと確信しています。ただ、この化学の力もあくまで世界トップ水準、即ち、世界ナンバーワン、または世界オンリーワンでなければなりません。

私は、日本化学会の活動を通じて、日本の化学力の向上に貢献してまいりたいと考えています。キーワードは日本化学会の「グローバル化」とイノベーションにより「世界トップを目指す」ことです。そのために、以下の6点について重点的に取り組む計画です。

- (1) 日本化学会の国際化の推進
- (2) 日本化学会学術誌の世界トップ水準へのレベルアップ
- (3) 出口指向・課題解決型の産学連携活動の推進
- (4) グローバルに活躍できる人材の育成・化学普及活動の強化
- (5) 世界各国の化学会との連携強化
- (6) 日本化学会の組織基盤の強化

(会員増強、財務状況の見直し、事務局の効率化)

この中では、日本化学会の国際化の一環として、春季年會に海外から、特にアジアからの投稿・発表を大幅に増加させたいと考えています。そのためには、年會の学術発表を100%英語化する必要があります。会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

私は日本化学会会長に就任後、6月3日に日本経済団体連合会の会長に就任しました。日本化学会と日本経団連の会長を兼務することとなりますが、日本の化学力の向上と産業力の強化を一体ととらえ、日本化学会での活動に取り組んでまいりたいと思います。会員の皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。